

問題点レポート No.1

大丈夫か？！貴金属店のセキュリティ

ガードは万全と誰もが思う貴金属店が襲われる不思議

日本最大の「ジュエリータウン」を見守る監視カメラ

日本最大の「ジュエリータウン」として知られる東京・台東区のJR御徒町駅を挟んだ貴金属問屋街に6月から約20台の防犯カメラが設置され監視を始めた。貴金属店を狙った侵入盗や置き引きなどの事件が多発し、その影響で盗難被害に遭った貴金属店に支払われる保険金が引き下げられるなど“犯罪が起きやすい街”と思われるのは適わないと店主らが自衛策として設置した。

設置されたのはJR御徒町駅を挟んだ同区上野3、5丁目の約1.5平方キロの地域で、約200店の貴金属店がひしめき合っている。01～02年の2年間で同区域では店舗への侵入盗が9件、置き引きや車上狙いなど屋外での犯罪が34件発生し、被害は総額5億7300万円相当にのぼっている。

店舗内に警備システムを導入しているところもあるが、店主らの任意団体「ジュエリータウンおかちまち」は昨年7月、街頭に防犯カメラを設置することを決め、工事をしていた。ビルの壁から道路上にのびた長さ約2.5メートルの鉄棒の先に設置し、高さ4メートルの位置から24時間、街頭を映し出す。犯人の姿をとらえる目的もあるが、目に付く場所に設置することで犯罪の抑止効果も狙っている。

設置費用は約1,200万円、運営費用は年間約150万円。撮影したテープは犯罪捜査以外には使わないなどの管理規定を定めプライバシーの問題が起きないようにしている。

高価な商品が夢を誘い、また犯罪心も誘引

程よい明かりのもと高価な指輪やネックレス、ブレスレットなどがショーケースに美しくディスプレイされている貴金属店内には夢を誘う別世界の趣がある。道路に面しても人目をひくようにショーウィンドーが設けられ、そこにも貴金属がディスプレイされている。買う気をそそっているが、同時にそれが犯罪心を誘引している。

近年、来日外国人や来日外国人と日本人が組んだ犯行が多いが、外国人の目から見ると日本の貴金属店のディスプレイやセキュリティは“甘い”の一言に尽きるだろう。外国系と日本人による貴金属店（高級ジュエリーショップ）を見比べた印象は、日本人経営のほうが入口のガードが甘い、道路に面したショーウィンドーそのものも甘いと感じさせる。店内に入れば、天井には監視カメラが数台あるものの巡回式は少なく、またレンズから見ても犯行を重ねてきた泥棒は“どうということはない”と思うに違いない。接客する店員の動作にも甘さを感じるに違いない。

普通の人には、取り扱っている商品が超高価なものばかりという貴金属店はセキュリティが厳重で盗みに入るのは無理だと思うだろうが、残念ながら貴金属店に盗みに入る泥棒は今後も絶たない。特筆したいような事件がある。平成10年に今はなくなってしまった東急百貨店日本橋店の貴金属売場が4月と9月に2度も襲われた事件である。4月は約1億円相当が、9月には1億5千7百万円相当が被害に遭っている。きわめて高価な商品を扱っていれば、しっかりしたセキュリティシステムを構

築しているのが普通だと思うが、億を越す被害を2度も受けたというケースは、まず空前絶後だろう。一般住宅で2度も空き巣に入られるのとはわけが違う。

泥棒にも得て不得手があって、貴金属店を襲うような泥棒は盗む腕もよいが、もっとも大きな特長は細かい神経を持っていることである。盗みに入る前には必ず来店客数、金庫の設置場所、防犯装置、最寄りの警察署までの距離などを入念に下見する。それだけでなく一味の若い女性に“アルバイトをしたい”といわせて狙った店の様子を探らせることもある。知らぬは貴金属店主ばかりである。

知らぬは貴金属店主ばかりでなく、セキュリティシステムを依頼した先の警備会社が作る警備計画自体が甘いということがある。平成6年8月、札幌市内のディスカウントショップ店の壁が壊され、貴金属や時計など385点(約3400万円相当)が盗まれた事件で、警備を請け負った警備会社が、警備計画が不備だったとして訴えられた。

警備会社は、「店(原告)の承諾を得て、出入口などからの通常の侵入を想定して警報器の数などを決めており、予想外の壁からの侵入や、警報器の死角で犯人の行動を感知できなかったことに過失はない」を主張したが、札幌地裁の判決は、「被告(警備会社)は警報器の死角について十分な説明をしていない。また、原告は、専門業者の被告が侵入などの事態が発生しないよう計画して警備することを期待して警備方法を任せており、原告が不備のある警備計画に同意したとしても、被告の責任は免れない」「被告は壁などからの侵入に備えた警備態勢をとっておらず、現に侵入後の窃盗犯を速やかに感知できなかったのも、警報器の設置場所や数が充分でなかったため」として、被告に約3400万円の支払いを命じた。

平成9年8月に約1億円相当の盗難事件にあった横浜市中区の貴金属店が警報装置が旧式のままであったために被害を防げなかったとして警備契約をむすんでいた警備会社を訴えたケースでは、店には電話回線で警備会社とつながる警報装置が設置されていたが、犯人は電話線を切断して侵入していた。原告の貴金属店側は当時すでに実用化されていた電話線が切断されると同時に警備会社に異常を知らせる最新式の警報装置をつけていれば被害は防げたのに警備会社は旧式のまま放置したと主張し訴えたのである。

貴金属店主が警備会社との商談で値引きばかり要求すると、セキュリティシステムを導入する目的を忘れてしまうことがあるが、泥棒はその弱点を見事に突いてくる。泥棒はセキュリティシステムの裏をかいてくるということを忘れてはいけぬ。しかも犯罪事例を分析すると、組織的かつ計画的で大胆な犯罪が多く、犯罪時間も数分と実に巧妙となってきている。しかも泥棒はセキュリティ機器の原理を十分に知っていて、その弱点をついて犯行に及ぶのである。

今年になって貴金属店が襲われた主な事例

平成15年になって起きた貴金属店を対象とした犯罪例を紹介しよう。貴金属店のセキュリティ対策の欠陥がどこにあるか参考になる。

1月10日、東京・台東区の貴金属店の壁に穴が開けられ、店内の金庫からネックレスや指輪など5千点(約1億円相当)が盗まれているのが発見された。穴は縦約40センチ、横約50センチの四角形で、同店とすき店舗を区切るコンクリート壁にドリルやハンマーを使って開けたとみられる。犯人はすき店舗側から侵入したとみている。

壁に穴が開けられるという手口は、昔は考えられなかったが、今では珍しくない。壁の内側にも警報装置の設置が必要である。

3月6日午前9時頃、京都市南区東九条柳下町の貴金属店で店のシャッターがこじ開けられているのを通りがかった人が見つけ、近くの交番に届けた。駆けつけた店員が調べると、店内が荒らされ、

腕時計など商品数10点、数百万円相当がなくなっていたといい、九条署は窃盗事件と店のシャッターがこじ開けられ、陳列ケースのショーウィンドーが割られていた。警報装置のないことが想像できる。

3月9日午前3時頃、広島県海田町のスーパー3階の宝石店で警備装置が作動し警察官が約10分後に駆けつけたところ店内のガラス製ショーケースが壊され、ネックレスや指輪など宝石類計約6百万円相当が盗まれていた。立体駐車場2階からスーパー2階フロアに通じる出入り口ドアのガラスが1枚破壊されていた。スーパー自体に警報装置や監視カメラなどのないことが想像できる。

3月18日午前5時頃、茨城県水戸市の貴金属店の警報装置が作動し通報を受けた警官が駆けつけると、店内から指輪やネックレスなど約330点（約6千万円相当）とレジの現金がなくなっていた。店舗裏のガラス戸が割られ、内側の鉄製の扉もバールのようなものでこじ開けられていた。泥棒は正面入口から入ってくるだけでない。

3月21日午後3時頃、神奈川県横須賀市の店舗で数人の男がショーウィンドーをバールでたたき割り、展示してあった高級腕時計約13点（約2千万円相当）を奪い車で逃走した。店内にいた男性店員が手で商品を押さえようとして割れたガラスで軽傷した。この荒っぽい手口が増えている。

3月23日午前3時頃、兵庫県姫路市の貴金属店の警報装置が作動し警官が駆けつけたところ、店のシャッターが破られ店内から1千万円相当の貴金属が盗まれていた。車を後部からシャッターに突っ込ませ、めくれあがったすき間から店内に侵入したらしい。この荒っぽい手口も増えてきた。盗難車を使うことが多い。

3月31日午前2時半、兵庫県尼崎市の貴金属店に車が突っ込んだのを近所の人が目撃した。警察官が駆けつけたところ店内のショーケースが壊され、指輪やネックレスなど数百点、約7百万円相当が盗まれていた。この荒っぽい手口も増えてきた。盗難車を使うことが多い。

4月7日午前4時頃、神戸市内の時計店に設置の警報機が作動し警察官が駆けつけたところ、外国製高級腕時計など約1千9百万円相当が盗まれていた。シャッターがバールのようなものでこじ開けられ、店内の壁に沿ってコの字型に置かれたショーケースのガラスが割られていた。今どきの泥棒は3分～5分で犯行をすます。

4月16日午前3時半頃、兵庫県尼崎市の時計店で警備会社の警報装置が作動し警察官が駆けつけたところ、店のシャッターがめくられ高級腕時計や指輪など約4千万円相当が盗まれていた。現場に市販の固定工具が落ちており、犯人はこの工具をシャッターの下に取り付けロープで車と結んで引っ張りシャッターをこじ開けたとみている。弱点を見つけて突撃するのが泥棒である。

5月10日午前8時半頃、千葉市中央区本千葉町のビル1階にある貴金属店でシャッターが壊され店内の商品などが盗まれているのを巡回中のビル警備員が発見、連絡を受けた同店の社長が110番通報した。時計や指輪などの貴金属類が約四百五十点（約三千万円相当）が盗まれていた。店は9日午後8時50分頃に営業を終え戸締りをした。警備員が発見した際は、正面入口のシャッターがこじ開けられ店内のショーケースが壊されていた。警報装置などは設置していなかった。

警報装置が未設置の店はまだ多い。

5月17日午前5時10分頃、菊池市隈府の時計店で、“入口のガラス戸が割られている”と通行人から110番通報があった。菊池署員が駆けつけたところ指輪やネックレスなどの貴金属数10点が盗まれていた。出入口のシャッターがこじ開けられて、ガラス戸と店内のガラスケースが割られていた。被害額は数百万円に上るとみられる。同店は三階建て自宅兼店舗で、16日午後8時に閉店。犯行は17日未明とみられるが、原川さんらは2、3階の自宅で就寝中で、被害には気づかなかった。防犯ベルなどは設置していなかった
警報装置が未設置の店はまだ多い。

どうして内部の情報が漏れるのか。内部の情報を知ることのできる可能性のある人には、そこで働いている社員（アルバイト、パートを含む）をはじめ顧客、取引業者、ビル管理業者（清掃、設備、警備）など多くの人があります。セキュリティ管理担当者は、これらの人について常にチェックしておく必要がある。とくに経営者、経営幹部、社員（アルバイト、パートを含む）たちは売上金の様子やセキュリティシステムのことなどを家族や友だちに無神経に話してはいけません。金曜、土曜、日曜の売上金の管理がどうなっているか、酒の席で何気なく話したことが泥棒の情報収集係の耳に入ってしまう危険性が高いのである。

今どきの泥棒は、さまざまな面で進んでいる。レベルが段違いに違う。それにもかかわらず防犯意識が薄い、また不況のため防犯装置にかけるカネなど無いという経営者、経営幹部がいる。一般には警備が厳重だと思われる貴金属店だが、実態は大違いで、残念ながら相も変わらず襲われるに違いない。